

令和3年度 編入学・学士入学試験

専門科目：簿記 [問題用紙]

【注意事項】

1. 解答はすべて解答用紙に記入し、黒色の鉛筆あるいはシャープを用いること。
2. すべての受験番号欄に、受験番号を明記すること。

第1問

決算の開始にあたって、合計残高試算表を作成する意義について、合計試算表と残高試算表に分けて解説しなさい。

第2問

連結貸借対照表の純資産の部に記載される「株主資本」と「非支配株主持分」について、表示される情報内容を解説しなさい。

第3問

FU 株式会社における以下の取引について、仕訳を示しなさい。勘定科目は、最も適切なものを選ぶこと。

現金、当座預金、普通預金、売掛金、製品、未収入金、建物、建物減価償却累計額、機械装置、
関連会社株式、その他有価証券、支払手形、営業外支払手形、買掛金、未払金、預り金、修繕引当金、
資本金、MK 支店、本店、売上、仕入、研究開発費、修繕費、開業費、為替差損益、支払手数料

- (1) 営業用建物（取得原価 ¥8,000,000、減価償却累計額 ¥6,400,000）の工事が完了し、代金 ¥2,300,000 は約束手形を振り出して支払う。このうち ¥1,700,000 については、耐震強化のための支出と認められている。また、通常の修繕相当分には修繕引当金勘定の貸方残高 ¥500,000 を充当する。
- (2) 新製品 X の設計を目的としたプロジェクトにのみ使用し、他の目的には使用できない機械装置 ¥1,500,000（耐用年数 5 年）を取得し、代金は小切手を振り出して支払った。
- (3) 取引関係を維持・強化する目的で、KR 株式会社の発行済株式のうち 4%を ¥2,800,000 で取得した。取得に伴う手数料 ¥120,000 と合わせて、3 日後に普通預金口座から引き落とされる予定である。
- (4) かねて米国 A 社へ製品 \$ 105,000 を売り渡しており、代金はまだ受け取っていない。為替相場（\$ 1 当たり）は、商品売買日は ¥101、決算日は ¥106 である。必要な決算整理を行う。
- (5) MK 支店の開設にあたって、現金 ¥600,000 を本店から移動させた。支店の会計を独立させる前提で、本店側の仕訳を示すこと。

第4問

以下の〔資料〕にもとづき、KZ株式会社（決算日：20X5年3月末）の精算表を完成させなさい。
¥は千円を表す。元丁欄は省略している。なお、税効果を考慮する必要はない。

〔資料〕

- (1) 当座預金勘定の帳簿残高と取引銀行が発行した残高証明書とを照合したところ、次の事項が判明した。
- (ア) 買掛金¥170の弁済のために小切手を振り出したと処理したが、先方へ手渡していなかった。
 - (イ) 広告宣伝費¥410の弁済のために小切手を振り出した際、誤って¥140と記帳していた。
 - (ウ) 売掛金¥200を回収して当座預金口座に預け入れたが、銀行では翌日扱いとなっていた。
- (2) 売上債権の期末残高について、差額補充法により2.0%の貸倒引当金を見積り計上する。
- (3) 期末商品棚卸高の内訳は以下のとおりである。売上原価は「仕入」の行で算定してかまわない。
- | | | | | |
|---------|-----|--------|---|-------|
| 帳簿棚卸数量： | 36個 | 原価 | ： | ¥45/個 |
| 実地棚卸数量： | 32個 | 正味売却価額 | ： | ¥50/個 |
- 棚卸減耗損は売上原価には含めず、特別損失の区分に掲記すること。
- (4) 期末時点で保有している有価証券は、以下のとおりである。
- | 銘柄 | 保有株数 | 帳簿価額 | 期末時価 | 保有目的 |
|---------|-------|----------|----------|-------------|
| YG 会社株式 | 20 千株 | ¥90 / 千株 | ¥80 / 千株 | 短期的な市場価格の変動 |
| NW 会社株式 | 30 千株 | ¥60 / 千株 | ¥70 / 千株 | ” |
- (5) 仮払金¥900は、期中にその他利益剰余金の配当を行った際に株主へ支払った配当金について処理したものである。なお、準備金の積立が未処理のため、会社法で定められた最低額を積み立てる。
- (6) 有形固定資産の減価償却について、以下のとおり行う。
- (ア) 備品：200%定率法（耐用年数8年、償却率0.250）、20X2年4月より使用開始。
 - (イ) 車両運搬具：生産高比例法（100,000km走行可能、当期は7,500km走行）、20X4年11月に取得。
- (7) 期中に購入した郵便切手のうち¥20が、期末時点で未使用であった。
- (8) 支払家賃のうち¥360を、翌期へ繰り延べる。
- (9) 納付すべき消費税等について、適切に処理する。
- (10) 当期に納めるべき法人税等の額は¥355であった。残高試算表に記載された仮払法人税等は、期中に中間納付したものである。

以上

令和3年度 編入学・学士入学試験
専門科目：簿記 [解答用紙]

受験番号	HK
------	----

第1問

	意 義
合計試算表	
残高試算表	

第2問

	情 報 内 容
株主資本	
非支配株主持分	

第3問

(1)	(借)	(貸)
(2)	(借)	(貸)
(3)	(借)	(貸)
(4)	(借)	(貸)
(5)	(借)	(貸)

